

# 内子ねき歩き参加者募集中!

ねき歩き専用ガイドがご案内するまち歩き。暮らす人がいる分だけ、独自の文化や歴史があります。楽しく、ゆっくりと、内子の魅力を紐解くねき歩き。皆様の参加をお待ちしています!

## 申し込みはホームページから!

ねき歩き で検索!

[www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/](http://www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/)

※詳しくは内子町公式観光サイト「内子さんぽ」をご覧ください。

内子さんぽ で検索!

[www.we-love-uchiko.jp/](http://www.we-love-uchiko.jp/)

### まち歩きアプリのご案内



ねき歩き全コース上で  
ナビゲーションサービス  
をご利用いただけます。



QR Translator



Scan to get the info in  
your own language.

TOUR  
00

Uchiko Guide Tour #00

Machinami

Step back in time to the Meiji period. In the Yōkaichi & Gokoku historic district are traditional Edo and Meiji period residences and townhouses.



コース

# 町並み

内子ねき歩き





専属ガイドツアー  
内子ねき歩き

# 町並みコース

伝統文化が薫る町並みや内子座をご案内する町並みコース。ひと昔前の地場産業の名残を感じられる町並みをそぞろ歩きます。目の前に広がる空間と古写真を見比べ、時代とともに移り変わる町の景観にふれながら、「うちこ時間」をお楽しみください。

Neki Aruki♪



「ねき歩き」とは？

「ねき」とは、内子の方言で「近く」「近場」のこと。近くの小エリアを愉しむ新たなまち歩きです。

所要時間 150分 距離 1.2 km

参加費 お1人様 2,500円

(お茶処でのお茶代や木燭資料館上芳我邸などの有料施設入館料を含みます)

定員 1~15名

集合場所 八日市・護国町並保存センター  
(内子町城廻211番地)

集合場所までのアクセス  
① JR内子駅から徒歩約25分  
② 内子・五十崎ICから車で約5分。  
ICより国道56号線を右折し松山方面へ。  
※お車でお越しの際は、町並駐車場(有料)をご利用ください。

※集合場所の位置は中面マップに記載しております。

申込方法 内子町公式観光サイトの「おさんぽコース(ガイド付き)」を確認の上、ホームページからお申し込みください。

[www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/](http://www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/)

🔍ねき歩き で検索!

問い合わせ先 ①内子町ビジターセンター(A・runze)  
☎0893-44-3790  
FAX0893-44-3798

〒791-3301 愛媛県喜多郡内子町内子2020番地  
開館 9:00~16:30(4~9月17:30)木曜休館

散策の際には歩きやすい服装と靴でどうぞ。  
また、車などに充分注意し、各自で責任を持って行動してください。

内子ねき歩き

## 蠟ろうの老舗しにせ・上芳かみは我邸がてい

古い、沈んだ色彩の町並に、まるで花が咲いたかのような一群れ——。京都、萩、高山、妻籠といった所には、なぜ若い女性が多く訪れるのだろうか。思うに、女性は感覚的な感濁わくじやくが強いせい、木、紙、土といった自然のもつ感覚のやさしさのようなものを、見るだけで感じ取ってしまう。人間の意識を超えた場所の持つメッセージをそのまま素直に受け入れてしまうような、そんな女性の持つ特性が、古い町に足を運ばせるような気がする。それは町並だけでなく、一軒の家をとっていても同じではないだろうか。

家というのは不思議なもので、そこにある道具の表情や配置、家全体のもつ気配のようなものが、住み手の意識的に語らない側面すら語ってしまうところがある。護国・八日市の家並の中で、唯一公開されている上芳我家も明治27年の建築以来、ここに生きた人々や、生きている間に起こったできごとや暮らしを、膨大な脈

絡のからまりあいを見せながら、さまざまに語りかける。  
むろん、家は住むためのものだから、住まわれてこそ意味をもつ。ただの構造物ではなく、生きられる空間であり、時間だからである。  
しかし、そっと佇みたぎ、ほんの少し想像力を働かせば、その痕跡から何かを読みとることも、停止した時の刻みを逆に動かすこともできる。  
古い家を見た時に覚える一種説明しがたい感動は、私たちが身をゆだねることができるものを、本能的にさぐりあてたというよろこびかもしれないのだ。



上芳我邸正面

(昭和57年初版内子町観光協会発行「観光ガイドブックうちこ」より一部抄出)

# 町並みコース

時代とともに移り変わる  
内子まち並み歩き

## スタート

① 町並み入口 (集合場所)  
八日市護国町並み保存センター

重要文化財  
② 木蠟資料館  
上芳我邸

## ③ せだわ

### 『保存地区の特徴』

町並保存地区には江戸時代後期から大正時代にかけて建てられた町家や豪商の屋敷が軒を連ねています。懸魚、鏝絵、出格子、鳥袋などの意匠が見られるほか、淡い黄色の漆喰で塗り込められた重厚な大壁や平入りの建物が特徴で、家と家との間には「せだわ」とよばれる小道や水路があり、大壁や石積みと相まって独特の路地空間を現出しています。



伊予銀行内子支店  
明治29年(1896)に設立した内子銀行が前身



小田川  
物資を運んでいた川舟(大正時代)

## ① 町並み入口

宿場町的な性格が強かった護国地区。



1970年代の町並み



映画「坊っちゃん」ロケ現場  
昭和52年(1977)

重要文化財  
本芳我家住宅 (非公開)

重要文化財  
大村家住宅 (非公開)

町家資料館

登録有形文化財  
旧下芳我家住宅 (下芳我邸)

## ④ 内子の本町通り



本町2丁目昭和30年(1955)

現在の内子本町商店街は、かつて六日市とよばれ、八日市と共に木蠟産業が発展してきました。大正時代初期においては、製蠟、製糸、酒造、木材、木炭などの諸産業が栄えていましたが、産業の移り変わりとともに、まちの様子は変わっていきました。

## ② 木蠟資料館上芳我邸

### 『明治の内子は木蠟の町』

明治時代半ば、内子町が全国木蠟生産高の30%を占めるまでになった木蠟産業。その製蠟町としての佇まいを今に伝える重要文化財上芳我家住宅は、地場産業と住宅のかかわりを示す貴重な遺構です。



白蠟生産の場であった釜場



上芳我邸内に展示されている白蠟

### Q:木蠟とは?

ハゼノキの実から絞り出した植物油のことをいいます。搾ったままの状態を「生蠟」。そして更に精製し乳白色になった「白蠟」または「晒蠟」を総称して「木蠟」と呼びます。当時は、髪付け油や織物のつや出し、軟膏類などに使われました。

魚市場跡地



町営の内子魚市場  
明治40年(昭和7年)1907~1932まで営業

八幡神社  
天正19年(1591)、内子六日市創設の際社殿造営された産土神社

内子児童館  
「内子初の学校」「化育学校の面影が残る」

内子町ビジターセンター  
Arunze

まちな駅  
Nanze

国鉄時代の旧内子駅



旧内子駅跡

## ⑤ 内子座

### 『娯楽の殿堂、内子座』

大正4年(1915)、町の有志によって設立された大興記念株式会社内子座。翌年のこけら落しは、淡路の人形浄瑠璃(吉田傳治郎座)でした。興行がある日は太鼓櫓から歯切れのよい太鼓の音が響き渡っていました。平成27年(2015)に重要文化財に指定され、翌年、創建100周年を迎えた内子座。取り壊しの危機を乗り越え、内子座は、文楽や狂言などの古典芸能のほか、町の文化ホールとして活用され、現役の芝居小屋として生き続けています。



内子座・内子小学芸会昭和7年(1932)



招き猫はどこかな?

## ⑤ 内子座

ねぎ歩きコース内スポット  
今はなき姿・古写真  
現在のスポット

郷之谷川



予讃線